

構造工学シリーズ 18 性能設計における土木構造物に対する作用の指針

正誤表

(第1版・第1刷に対応)

ページ	箇所	訂正内容
A-I-4	下3行	Σ の上の12 → n
A-I-18	上2行	建築物加重指針 → 建築物荷重指針
A-I-33	上5行	Quatile Plot → Quantile Plot
A-I-34	下2行と下1行	
A-I-35	下6行と下5行	
II-5	2.2 作用因子【解説】下5行	…(≒上限値)か → …(≒上限値)か
II-7	3.1 一般(1)上1行	…受ける木構造物 → …受ける土木構造物
II-7	3.1 一般【解説】下1行	付録-II-3-1 → 付録-II-1
II-9	3.3 作用モデル【解説】下1行	付録-II-3-2 → 付録-II-2
II-11	3.5 基礎データ【解説】上5行	付録-II-3-3 → 付録-II-3
II-11	3.5 基礎データ【解説】下5行	付録-II-3-4 → 付録-II-4
II-11	3.5 基礎データ【解説】下3行	付録-II-3-5 → 付録-II-5
II-56	7.4 基礎データ【解説】下1~2行	熱伝導率や → 削除
II-74	10.4 衝撃作用の変動性【解説】下7行	…あたることできる. → …与えることできる.
II-76	10.6 限界状態	(1)~(3)を以下のように修正. (1) [REQ] 設計者は、衝撃作用を受ける構造物には使用限界状態、修復限界状態および終局限界状態のいずれか、もしくはそのいくつかについて定義する。 (2) [REC] 変動作用として取り扱う場合には、一般に複数の限界状態を指定する。 (3) [REC] 偶発作用として取り扱う場合には、単一(多くの場合終局限界状態)を指定する。
II-79	11.1 一般【解説】下2行	表1 → 表11.1
II-89	12.2 のタイトル	降雨作用の設定における基本方針 → 作用因子
II-89	12.4.1 使用性照査用降雨作用【解説】下3行	参考文献3および付属資料1 → 参考文献2および付録-I-3
II-89	12.4.1 使用性照査用降雨作用【解説】下4行	参考文献3 → 参考文献2